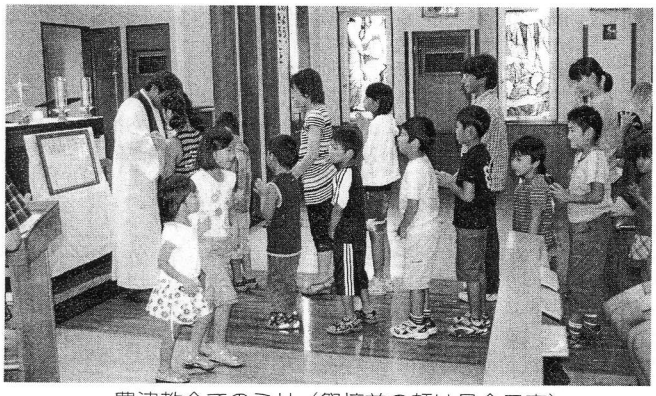
子どもとミサ

山元（やまもと） 眞（まこと）（行橋（ゆくはし）教会主任司祭／福岡教区）

山元（やまもと） 眞（まこと）神父

「司祭館」には窓が二つある。行橋教会と豊津教会。豊津教会は巡回教会とはいえ、所属信徒は約二五〇人。行橋教会は所属信徒約五五〇人。主日のミサ参加者は約四〇パーセント。毎月第三日曜日には、その前晩に豊津教会で、翌朝九時からは行橋教会で「子どもとともにささげるミサ」が行われる。子どもたちは弁当をもって参加し、教会学校が午後三時頃までである。

このミサでは、小・中・高・青年、そして、かつて青年だった大人たちが典礼の奉仕をする。ミサはバンドとオルガンの伴奏で行われる。豊津教会では平日の夜、メンバーが集まって準備をする。行橋教会ではミサの前晩の土曜日にリハーサルをする。時には教会に泊まる青年たちもいる。聖歌伴奏のリハーサルは絶対条件で、リハを欠かしたことはない。



豊津教会でのミサ（祭壇前の額は月命日表）

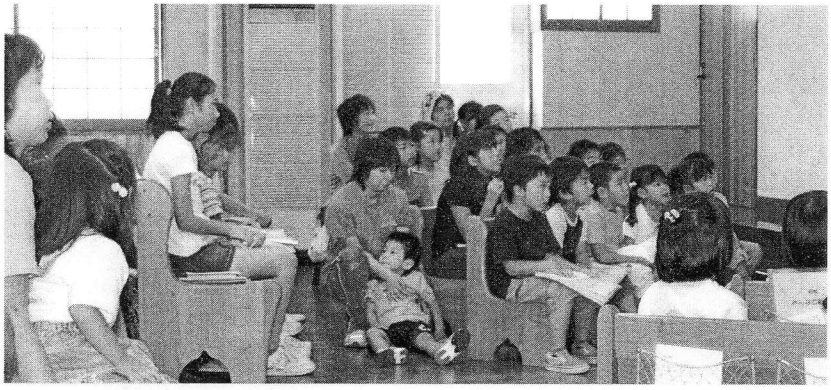
役割分担は、聖歌の伴奏の他に、ミサの準備と片づけ、祭壇奉仕（侍者）、聖書朗読、答唱詩編の独唱、共同祈願、奉納など。このような固有な役割を持たない他の子どもたちは歌や祈りをすることで共同体の祈りを作る。

信者の皆さんにお願いした。子どもたちは毎週「大人のミサ」に参加して、大人に付きあってくれている。意味があまり分からないのに。月に一度くらいは子どもが分かる、子ども中心のミサをしてもいいのではないかと。

第二バチカン公会議が開かれ一九六三年に最初の公文書が発行された。それが典礼憲章。典礼への行動的参加が強調された。しかし、ミサを中心とした典礼の刷新は大人の参加者を想定していたため、子どもにとっては分かりにくいところがあった。それで、子どもが参加しやすくその信仰を育てる力となるようなミサが望まれた（カトリック儀式書『子どもとともにささげるミサ』序文参照）。

こうして典礼憲章が出されてから十年後、今から約三十五年前の一九七三年に『子どもとともにささげるミサの指針』がバチカンから出された。これを受けて日本では一九七七年に『子どもとともにささげるミサの指針と奉献文』と『子どもとも

にささげるミサ』が発行され全国で使われるようになった。その後も研究、改定されて現在使われている儀式書は二〇〇三年にでき上がったものである。



長年の研究や実践によって工夫されてきた「子どもミサ」。ミサ参加者が減ったという声や子どもが教会に来ない（大人も！）という声があるが、三〇年以上も前から立派な「指針」があるのに、それさえも知られていないのが現実ではなかろうか。実践もしないで、嘆くのは早すぎる。

『子どもとともにささげるミサ』の目的は奉仕の精神を養ったり、ミサを盛り上げることではない。指針の最後に示されているように「子どもが感謝の祭儀の中で困難なしに喜んでキリストと出会い、キリストとともに神の前に立つことができるようになることである」（五十五項）。

六歳になる未熟児網膜症の子どもがいる。彼はミサで司祭が唱える奉献文も完全に暗記している。主の祈りが始まると、ときどき聖堂の中央通路に出て祭壇の前で手を拡げて天を見上げて祈る。まさにキリストとともに神の前に立っている。卒園前の子どもが友だちをミサに誘った。両親も初めてミサに参加した。最前列で歌うこの子たちの目は輝いていた。大人も、そして司祭も、もっとミサの素晴らしさに目覚めなければならないと。子どもたちも今では、三時間以上におよぶ復活徹夜祭でもしっかりと大人と一緒に最後まで祈ることができる。こんなことも子どもたちにはできる。甘くみてはいけない。

【ブログ】

http://micheleyam.exblog.jp

株式会社 吉本洋紙店

本　　店　〒104-0041　東京都中央区新富2-7-4　☎03(3551)4141㈹/2143　FAX03(3551)3939
厚木支店　〒243-0807　神奈川県厚木市金田1017　☎046(223)6931　FAX046(223)6930